

令和2年度

松戸市地域環境調査報告書



カケス
村松調査員撮影



カワセミ
平調査員撮影

松戸市 環境部 環境政策課

はじめに

野鳥は自然のバロメーターともよばれ、自然の中で、他の生き物とも様々な関わりをもって生活している生き物のひとつです。人間もまたこの自然のしくみに深く関係し、自然の恵みを受けながら生活をしています。

松戸市では「松戸市環境計画」（平成 10 年 4 月策定）のなかで『めざすまちの姿』として、「①人と生きものが共存しているまち、②健康的な日々を過ごすための環境が整ったまち、③地球の環境にやさしいまち」を掲げています。

多くの野鳥を育めるような環境を守っていくことは、私たちにとって『健康的な日々を送れる、地球環境にやさしい、住みやすいまち』（松戸市環境計画に掲げた「めざすまちの姿」）となるための指標のひとつになります。

上記の『めざすまちの姿』を実現させるため、平成 11 年度から「地域の人達に住まい周辺の環境状況を自ら調査する機会と、地域住民が同じ目標をもって地域独自の環境作りを始めるきっかけを提供する」ための『生きもの調査』事業が実施されました。

『生きもの調査』では野鳥のほかに、蝶やトンボ、セミ、バッタなどの生息状況も調査を 5 年間実施しました。

平成 17 年度からは、調査内容の一部を見直し、対象を野鳥に絞った『地域環境調査』を平成 21 年度までの 5 年間実施しました。また、平成 23 年度から環境度の指標を変更しました。

また、平成 27 年度からは、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年法律第 78 号）第 2 条第 1 項に定める特定外来生物（以下「特定外来生物」という。）の他、調査員が興味を持った野生の生きもの（以下「その他の生きもの」という。）についても報告いただく体制としました。

『地域環境調査』事業は、調査員による調査結果を市のホームページで公表することで、市民の皆さまに身近な環境について知っていただき、環境や自然について考えるきっかけをつくることを主な目的としています。

目次

1. 調査目的	4
2. 調査範囲	4
3. 調査の方法等	7
(1) 調査期間	7
(2) 調査方法	7
(3) 評価方法	8
4. 調査結果 前期 (4月～9月)	11
各地区の点数	11
得点化されている野鳥の目撃された地区	12
近年の比較	18
年間	19
参考資料	
○土地利用状況	28
○特定外来生物	29
○その他の生きもの	34
○コラム	35
○地域環境調査員からの短信	38
○おわりに	41

1. 調査目的

松戸市で実施している地域環境調査には次のような目的があります。

- (1) 地域の野鳥を地域の人が自ら観察・調査することで、地域の環境についての関心を高めること。
- (2) 地域で観察された野鳥の変化を経年的に捉えることで、地域環境全般の総合的な評価を得ること。
- (3) (1) および (2) により、地域環境の問題点を浮き彫りにし、地域独自の自発的な取り組みの活力を高めること。
- (4) 松戸市環境計画の見直し等の総合指標として活用し、環境計画推進の実効性を向上すること。

2. 調査範囲

松戸市全域を図-1のように1km四方の65調査区に分け、それぞれの地区に地域環境調査員(市民ボランティア)を配置し、担当調査区域内の環境を調査します。

図-1 調査区域図

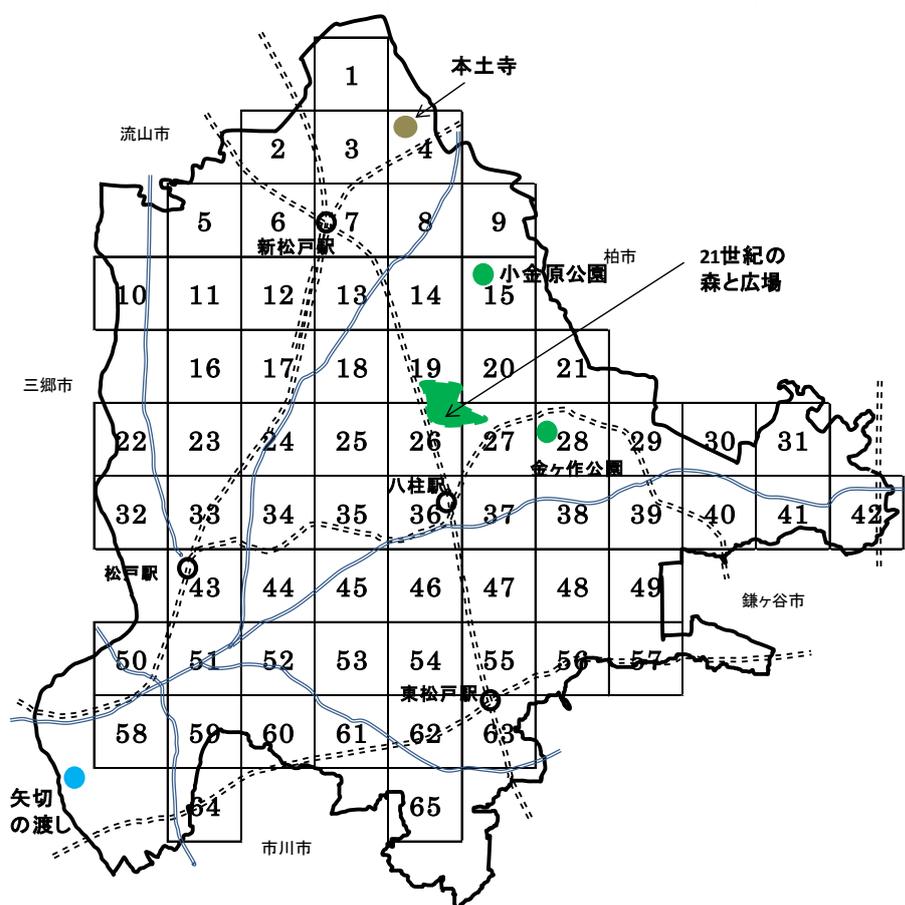


表-1 令和2年度地域環境調査（各地区の主な施設・場所）

地区 No	地区名	調査場所
1	幸田地区	幸田鉄塔通り、富士川・坂川沿い、幸田第1・2・3公園、浅間公園 等
2	横須賀地区	横須賀中央公園、坂川付近、大勝院、大倉記念病院、小金高校周辺 等
3	大金平地区	東漸寺、鹿嶋神社、本土寺、中金杉、広徳寺、大谷口歴史公園、大倉記念病院 等
4	東平賀地区	根木内城跡公園、富士川周辺、本土寺参道、北小金駅北口商店街、東平賀公園 等
5	新松戸地区	新松戸西小、南小、西パーク街、サンライト街区、あおぎり公園、もくれん公園、旭町田畑、稲荷大橋、坂川放水路左岸堤 等
6	新松戸地区	2番街、8番街、新松戸中央公園、けやき通り、坂川 等
7	幸谷地区	大谷口新橋、下山公園、溜脇公園、関さんの森N02、東漸寺、山王公園、こどもの森、幸谷斜面林、新松戸第1公園、水琴橋 等
8	久保平賀地区	清ヶ丘小金公園、ユーカリ交通公園 等
9	根木内地区	根木内歴史公園及び広池学園との市境 等
10	主水新田地区	まこも池、主水新田地区、江戸川河川敷、主水池、稲荷神社、栄町・旭町田んぼ付近 等
11	旭町地区	はすだ公園、けやき公園 等
12	西馬橋地区	新坂川、相川公園、新松戸南公園、中道公園、西馬橋1～3丁目、広田公園 等
13	幸谷地区	二三ヶ丘公園、南谷公園 等
14	八ヶ崎地区	金谷寺周辺、八ヶ崎第二小学校周辺、すずめ公園 等
15	小金原地区	小金原7丁目 等
16	栄町地区	下通橋、香取神社、吉岡梨園、長津道橋(坂川)、旭小、馬橋高手前六間川、日本大学周辺 等
17	西馬橋地区	全域(ロード) 等
18	馬橋地区	中和倉公園、馬橋第二公園 等
19	八ヶ崎地区	21世紀の森と広場 等
20	栗ヶ沢地区	はくちょう公園、栗ヶ沢中、ひばり公園、貝の花小、高木小学校、千葉西病院 等
21	金ヶ作地区	金ヶ作自然公園 等

地区 No	地区名	調査場所
22	古ヶ崎地区	江戸川河川敷
23	古ヶ崎地区	古ヶ崎第二公園、栄町第二公園 等
24	北松戸地区	中台公園 等
25	上本郷地区	松戸運動公園、県立松戸高校周辺 等
26	千駄堀地区	21世紀の森と広場、香取神社周辺、松戸中央霊園 周辺 等
27	常盤平地区	21世紀の森と広場、常盤平団地 等
28	常盤平地区	金ヶ作公園、ふよう公園 等
29	五香六実地区	金ヶ作周辺 等
30	六高台地区	北丘第二公園 等
31	高柳新田地区	六高台3～6丁目、六実中央公園、グリーンベルト (桜並木)、六実中学校 等
32	古ヶ崎地区	江戸川河川敷、樋野口 等
33	根本地区	中町児童公園、松戸市役所 等
34	南花島地区	南花島公園、上本郷駅 等
35	松戸新田地区	稔台駅、松戸運動公園 等
36	日暮地区	千駄堀、駒形公園周辺 等
37	常盤平地区	牧の原付近 等
38	初富飛地地区	牧の原団地公園、調整池周辺、金比羅神社、しら かし公園、けやき通り 等
39	松飛台地区	松飛台小学校周辺 等
40	五香六実地区	元山駅、ふれあい公園 等
41	六実地区	スポーツ広場周辺、六実1～3丁目 等
42	六実地区	六実3～5丁目 等
43	松戸地区	坂川周辺、松戸中央公園、松戸神社 等
44	胡録台地区	松ヶ丘小学校周辺、神明神社 等
45	稔台地区	稔台工業団地、和名ヶ谷地区 等
46	稔台地区	河原塚小周辺
47	河原塚地区	八柱霊園
48	松飛台地区	八柱霊園
49	松飛台地区	松戸南郵便局 等
50	小山地区	江戸川河川敷、南部小学校、坂川、川端道他、角 町周辺等
51	三矢小台地区	戸定が丘歴史公園、千葉大園芸学部 等

地区 No	地区名	調査場所
52	二十世紀が丘地区	和名ヶ谷中、和名ヶ谷クリーンセンター周辺 等
53	和名ヶ谷地区	和名ヶ谷、国分川周辺等
54	紙敷地区	河原塚中学校周辺、国分川周辺、春日神社、春木川 等
55	紙敷地区	紙敷石みやの森、東松戸駅周辺、八柱霊園周辺、東松戸駅周辺 等
56	松飛台地区	松飛台駅、関台公園 他
57	松飛台地区	泉ヶ丘1号緑地
58	中矢切地区	野菊の墓、下矢切264周辺 等
59	三矢小台地区	三矢小台公園、寺沢公園、鴻之台公園、神明公園、矢切神社 等
60	二十世紀が丘地区	大橋公園、胡録神社 等
61	秋山地区	松戸向陽高校周辺 等
62	秋山地区	もえぎの風公園周辺 等
63	高塚新田地区	高塚十字路 等
64	矢切地区	矢切地区、栗山浄水場、立身台公園 等
65	高塚新田地区	東部市民センター

3. 調査の方法等

(1) 調査期間

各年度の4月～3月末までの1年間を調査期間としています。

1年間を春～夏の期間の4月～9月（前期）、秋～冬の期間の10月～3月（後期）の半年ごとに分けています。

表-2 令和2年度の調査期間

前期	令和2年4月～令和2年9月（春～夏）
後期	令和2年10月～令和3年3月（秋～冬）

(2) 調査方法

調査員は、各自で選んだ担当調査区内で比較的環境度の高いと思われる（公園や神社、田畑、河川敷等）場所において、可能な回数の野鳥観察を実施します。野鳥の種類が分かったものについて○を調査票に記入し、半年ごとに事務局（市）へ報告します。

(3) 評価方法

評価にあたっては、公益財団法人日本鳥類保護連盟（以下：公財）日本鳥類保護連盟）が作成した「環境ものさし」を用いて行います。

この「環境ものさし」では、どのような環境にも生息できる鳥から豊かな自然環境にしか生息できない鳥まで、指標となるもの 50 種類選り出されています。ドバトのような身近にいる鳥には 1 点、クマタカのような森林地帯にいるような鳥には 10 点など、それぞれに 1 点～10 点(表-3)の点数がつけられています。

この評価方法に基づき、観察された野鳥の合計点を算出することによって、その地域の環境度を知ることができます。

なお、「環境ものさし」では、鳥の繁殖期間にあたる春～夏（4月～9月）の期間が点数の対象となっています。

環境度の算出対象期間：春～夏 4月～9月

表-3 「環境ものさし」における野鳥の点数

10点	クマタカ	7点	アカゲラ	5点	ヒバリ
9点	アカショウビン		オオアカゲラ	4点	コゲラ
9点	サシバ	7点	オオタカ		メジロ
	フクロウ	7点	キビタキ	4点	キジ
8点	アオバズク		センダイムシクイ	4点	セグロセキレイ
8点	アオバト	6点	ホトトギス	3点	カワラヒワ
	ツツドリ	6点	ヤマガラ	3点	キジバト
8点	クロツグミ		エナガ	3点	シジュウカラ
8点	コガラ		イカル	3点	ツバメ
8点	ゴジュウカラ	ウグイス	コシアカツバメ		
8点	サンコウチョウ	5点	ホオジロ	3点	ヒヨドリ
8点	サンショウクイ	5点	カッコウ	3点	ムクドリ
8点	ミソサザイ		モズ	2点	スズメ
	8点	オオルリ	5点	カワセミ	2点
8点	ヤマドリ	5点	キセキレイ	2点	ハシボソガラス
7点	アオゲラ	5点	セッカ	1点	ドバト
			オオヨシキリ	1点	ハシブトガラス

図-2 野鳥の点数 (出典:公財) 日本鳥類保護連盟)



例えば、スズメを観察すれば2点になりますが、1羽でも多数観察しても同じ2点になります。また、同じ4点の枠にいるコゲラ若しくはメジロの場合には、どちらか又は両方観察しても、同じ4点のみになります。

これらの点数を合計し、点数により地域の環境度を評価します。評価の基準は点数により5段階に分かれ、環境の状態は表-4のようになります。

表-4 環境度・点数と環境の状態

合計点と環境	環境の状態
A : 121 点以上	<p>Bまでの鳥に加え、ツツドリ、オオルリ、クロツグミのような森林性の鳥が見られるようでしたら、そこは里山から奥山化へと進んだ山地的な環境と言えるでしょう。</p> <p>また、森林生態系の頂点に立つクマタカや、森に棲むカワセミの仲間であるアカショウビンが見られれば、そこは私たちの生活圏からかなり離れた、自然豊かな山地の森林です。</p>
B : 81~120 点	<p>Cまでの鳥に加え、ホトトギスやヤマガラ、エナガのようなまとまった森林に生息する鳥が見られるようでしたら、そこは丘陵や谷津田のある里山的な環境と言えるでしょう。</p> <p>もし、サシバなどが見られれば、そこは典型的な里山です。里山は、昔から人によって利用・管理されてきた場所ですが、今では自然豊かな環境として注目されています。</p>
C : 41~80 点	<p>Dまでの鳥に加え、ヒバリのように草地に生息する鳥、セグロセキレイのように水辺を利用する鳥、ホオジロやモズのように林を利用する鳥が見られるようでしたら、そこは市街地から離れた広がりのある田園的な環境と言えるでしょう。</p> <p>田園地帯は人によって作られた空間ですが、生物の生息に適した環境が比較的残っています。</p>
D : 21~40 点	<p>Eの鳥に加え、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリなど、ある程度まとまった木々があれば生息できる鳥が見られるようでしたら、そこは市街地の中でも比較的緑のある環境と言えるでしょう。</p> <p>このような緑地の多くは公園として利用されていますが、同時にそこは市街地に棲む生息空間となる重要な場所です。</p>
E : 1~20 点	<p>カラスやドバトのように様々な環境への順応力の高い鳥や、スズメのように人の生活に依存するような鳥しか見られないようでしたら、そこは市街地の中でも都市化の進んだ環境と言えるでしょう。</p> <p>多様な生物の棲む環境としては適していません。</p>

4. 調査結果 前期（4月～9月）：環境度の評価対象期間

令和2年度前期に一羽でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中、49地区でした。

なお、「環境ものさし」において点数化されている野鳥50種については、50種中37種の野鳥について報告がされました。

報告された50種中37種の野鳥を点数化した結果、市全体での平均点は48点（前期に一度でも観察された野鳥を点数化し、報告のあった調査区数で割った平均点）となり、環境度はA～Eの5段階評価のうち松戸市としての平均はCの評価となります。

地区毎に見てみますと、Bに属する81点以上120点以下となった地区は2地区あり、Cに属する41点以上80点以下となった地区は30地区ありました。

表-5に各地区の点数、表-6に野鳥の種類別に観察された地区を示しています。

表-5 各地区の点数（4月～9月） （単位：点）

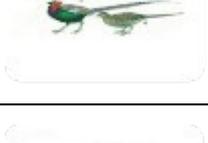
地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数
1	63	18	—	35	—	52	36
2	39	19	56	36	32	53	—
3	48	20	—	37	43	54	62
4	72	21	—	38	—	55	48
5	69	22	59	39	24	56	59
6	50	23	12	40	47	57	—
7	68	24	—	41	42	58	88
8	56	25	65	42	41	59	73
9	60	26	60	43	25	60	—
10	59	27	66	44	26	61	—
11	34	28	36	45	46	62	—
12	40	29	41	46	18	63	18
13	—	30	20	47	63	64	41
14	33	31	52	48	35	65	—
15	72	32	112	49	—	合計	2,395点
16	28	33	—	50	67	48点／C評価	
17	33	34	—	51	58		

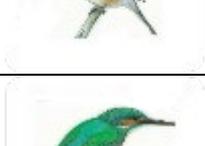
【合計2,395点÷49地区（報告のあった地区数）＝松戸市の平均48点】

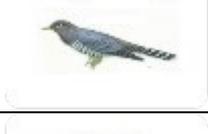
※ は、環境度がB（81点以上）の地区になります。

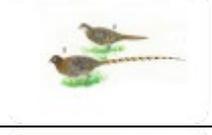
表-6 得点化されている野鳥の目撃された地区

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
1		ドバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 12・14・15・16・17・19・22・23・ 25・26・28・29・30・31・32・36・ 39・40・41・43・44・45・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・ 64
1		ハシブトカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 12・14・15・16・17・19・22・23・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・40・41・42・43・44・45・ 47・48・50・51・52・54・55・56・ 58・59・63・64
2		スズメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・22・ 23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・ 44・45・46・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・64
2		ハクセキレイ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・19・22・23・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・40・41・42・43・44・45・ 46・47・48・50・51・52・54・55・ 56・58・59・64
2		ハシボソカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・25・ 26・27・28・29・31・32・36・37・ 39・40・41・42・44・45・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・ 64
3		カワラヒワ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・22・25・27・ 28・31・32・37・39・44・45・47・ 48・50・51・52・54・55・58・59
3		キジバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・22・25・ 26・27・28・29・30・31・32・36・ 37・39・41・42・44・45・47・48・ 50・51・52・54・56・58・59・64

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
3		コシアカツバメ	
3		ツバメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・22・ 23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・ 44・45・46・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・64
3		シジュウカラ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・17・19・22・25・26・ 27・28・29・31・32・36・37・40・ 41・42・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・ 63・64
3		ヒヨドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・22・ 25・26・27・28・29・30・31・32・ 36・37・40・41・42・44・45・46・ 47・48・50・51・52・54・55・56・ 58・59・64
3		ムクドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・18・19・ 22・23・25・26・27・28・29・30・ 31・32・36・37・39・40・41・42・ 43・44・45・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・64
4		キジ	1・4・5・10・22・32・54・58
4		コゲラ	1・2・3・4・6・7・8・9・15・19・ 22・26・27・28・32・37・39・42・ 45・47・50・51・59

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
4		メジロ	2・3・4・5・7・8・9・10・14・ 15・22・25・26・29・31・32・36・ 37・40・41・47・48・50・51・52・ 55・56・58・59・63・64
4		セグロセキレイ	1・2・4・5・6・7・9・12・15・ 17・19・26・27・29・32・37・42・ 50・56・59・64
5		ウグイス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 12・14・15・17・19・22・25・26・ 27・29・30・31・32・37・40・41・ 42・43・45・47・48・50・51・54・ 55・56・58・59・63・64
5		ホオジロ	1・4・8・9・10・15・22・27・32・ 37・45・50・54・55・58
5		オオヨシキリ	1・5・7・10・11・19・22・25・ 31・32・50・54・58
5		セッカ	5・10・15・22・32・50・58
5		カッコウ	10・32
5		モズ	1・4・5・6・7・8・9・10・15・ 22・25・27・32・40・41・45・51・ 54・55・58・59・63・64
5		カワセミ	1・4・5・8・9・10・12・15・19・ 22・26・32・43・46・50・51・54・ 56・58
5		キセキレイ	8・9・27・32

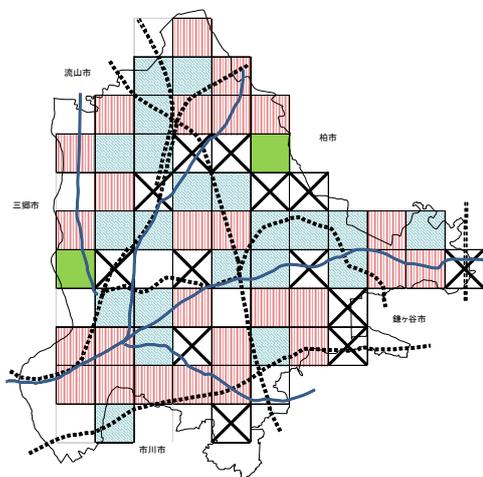
点数	写真	野鳥名	目撃された地区
5		ヒバリ	1・4・5・7・10・11・12・15・16・ 22・25・27・29・32・37・40・41・ 50・54・55・56・58
6		イカル	
6		エナガ	3・4・5・6・7・8・9・14・15・ 19・25・26・28・31・32・36・42・ 45・47・50・51・56・58・59
6		ヤマガラ	3・4・7・15・19・26・27・31・ 32・42・47・51・52・55・58・59
6		ホトトギス	26・32
7		アオゲラ	
7		アカゲラ	
7		オオアカゲラ	15
7		オオタカ	19・26・27・47・50・54・56・58
7		キビタキ	3・32・47・51・58・59
7		センダイムシクイ	3・32・51・59
8		アオバズク	

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
8		アオバト	
8		ツツドリ	32
8		オオルリ	
8		ミソサザイ	
8		クロツグミ	59
8		コガラ	40
8		ゴジュウカラ	
8		サンコウチョウ	32・47・59
8		サンショウクイ	4・7・32
8		ヤマドリ	
9		アカショウビン	
9		サシバ	

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
9		フクロウ	25・58
10		クマタカ	

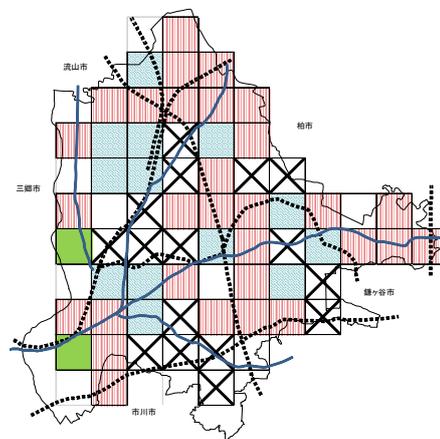
各地区の点数の比較として、令和元年度と令和2年度の各地区の状況を
 図-3及び図-4にて、経年の比較として3年分の目撃種類数及び平均点数を表-7
 にて示しています。

図-3 地区別点数（令和元年度）



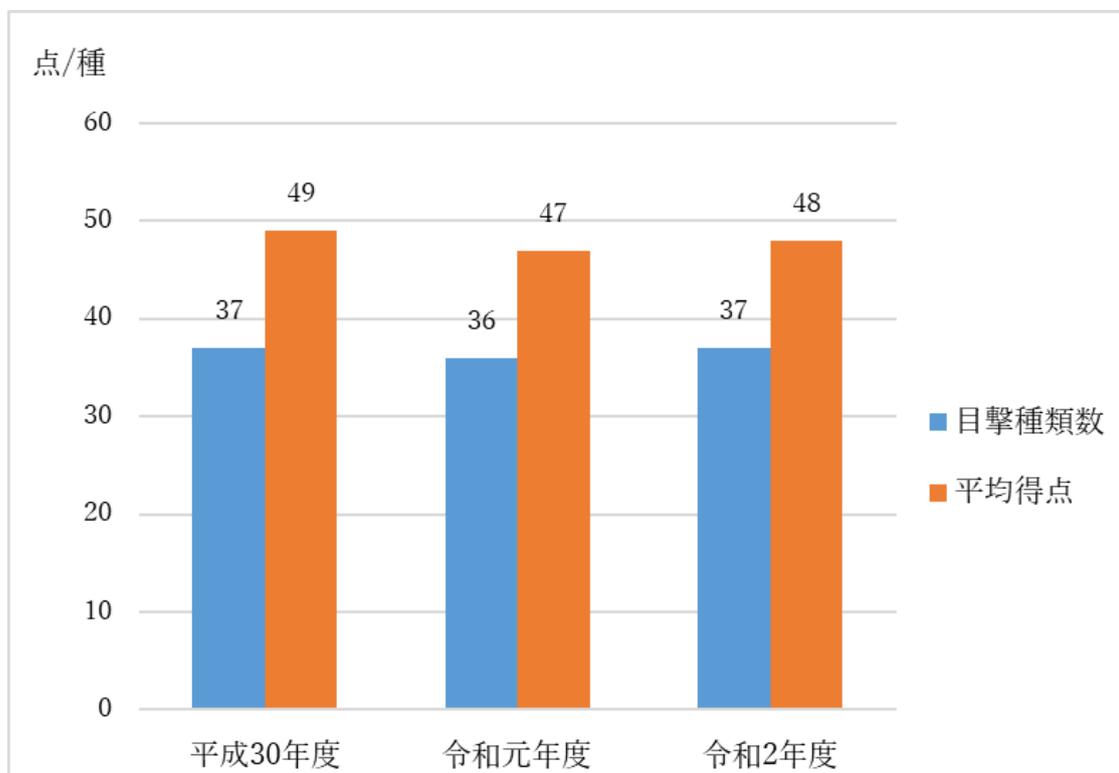
47点／環境度：C

図-4 地区別点数（令和2年度）



48点／環境度：C

81点以上
 41～80点
 21～40点
 1～20点
 報告無し



※目撃種類数は、得点化されている50種になります。

調査結果 年間

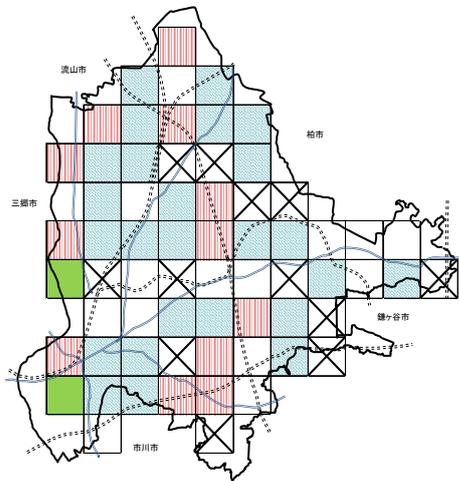
令和2年度中に一度でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中49地区の報告があり、観察報告のあった目撃種類数は、127種類でした。各地区で目撃された種類数を表-8にて示しています。

表-8 各地区の目撃種類数（年間） (単位：種)

地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数
1	48	18	—	35	—	52	21
2	35	19	48	36	16	53	—
3	25	20	—	37	19	54	49
4	46	21	—	38	—	55	25
5	65	22	45	39	19	56	33
6	31	23	14	40	19	57	—
7	45	24	—	41	16	58	78
8	30	25	30	42	28	59	34
9	30	26	44	43	20	60	—
10	60	27	32	44	14	61	—
11	31	28	25	45	21	62	—
12	31	29	17	46	20	63	7
13	—	30	19	47	35	64	15
14	15	31	39	48	23	65	—
15	43	32	106	49	—	127種類／年間	
16	30	33	—	50	44		
17	23	34	—	51	30		

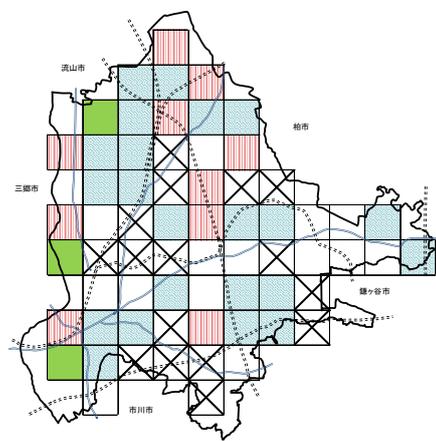
各地区の目撃された種類数の比較として、令和元年度と令和2年度の各地区で目撃された種類数の状況を図-5及び図-6にて、表-9では令和2年度における月別に目撃された種類数を示しています。

図-5 地区別目撃種類数（令和元年度）



123 種類／年間

図-6 地区別目撃種類数（令和2年度）



127 種類／年間

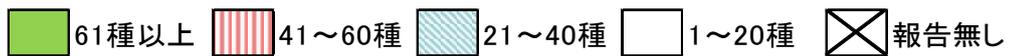
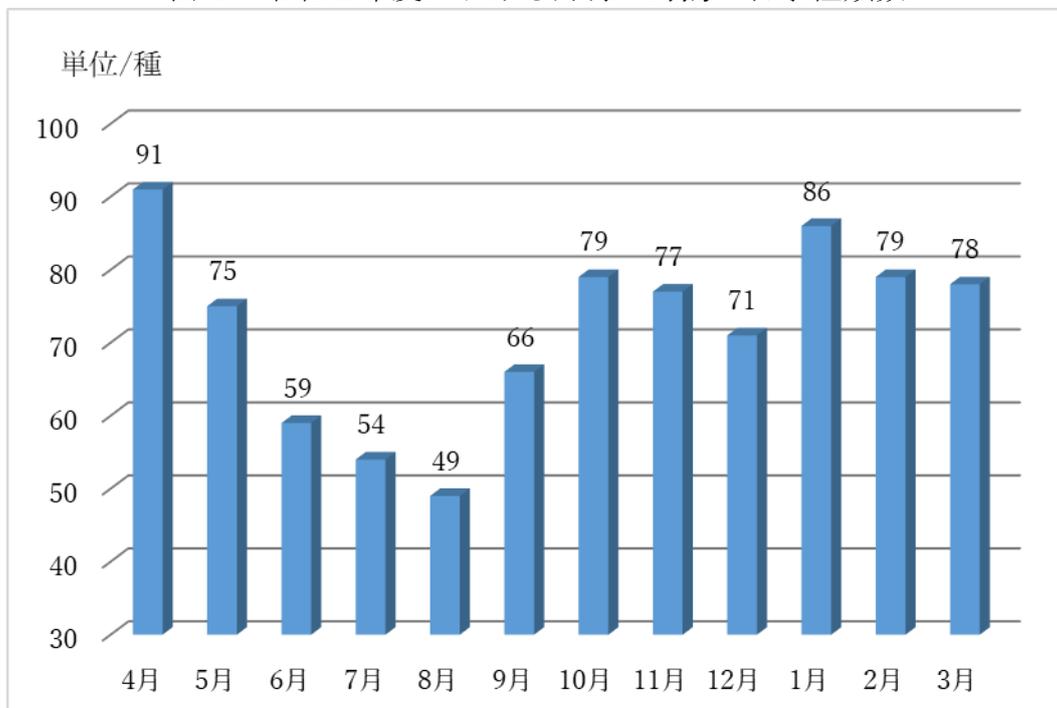
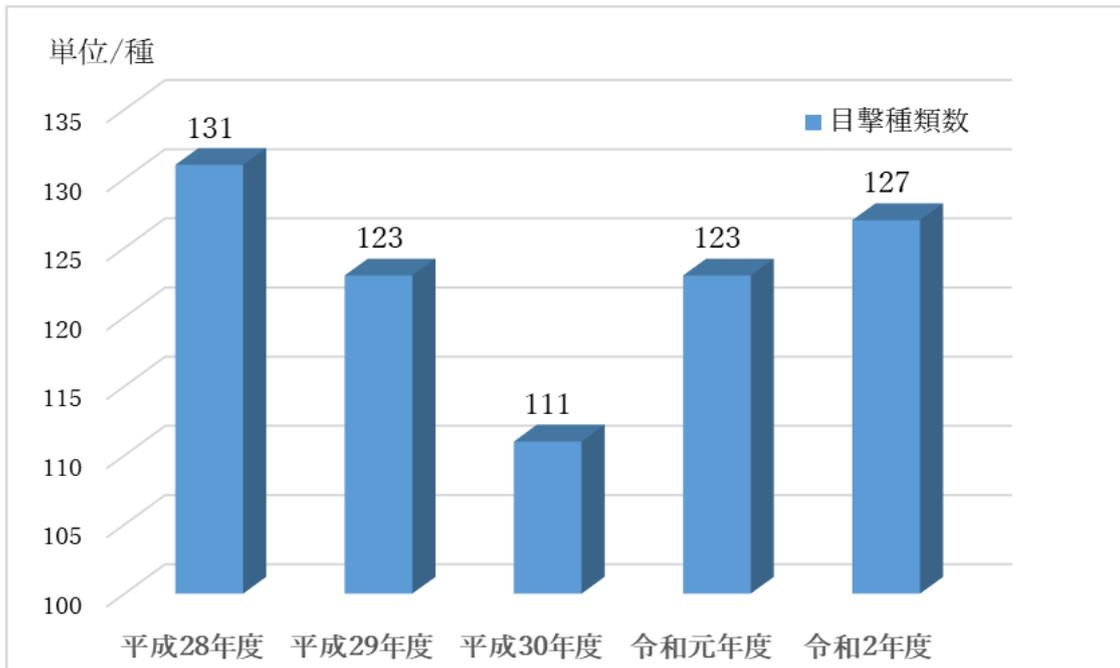


表-9 令和2年度における月毎の野鳥の目撃種類数



経年の比較として5年分の目撃された種類数を、表-10にて示しています。

表-10 平成28年度～令和2年度における目撃種類数



目撃された野鳥の種類数を比べてみると、昨年より多少、種類数が増加しています。年度によって調査員の経験や調査回数、調査員の配置された人数などに影響されると考えられます。

なお、観察された場所を見てみると河川などの水面・田畑・樹林地や街路樹、植林等の樹木が多いところなどで多くの野鳥が観察される結果となっています。

表-11 では、令和 2 年度に野鳥毎に目撃された地区を示しています。

表-11 令和 2 年度において野鳥の目撃された地区（年間）

◇以下得点の対象となっている野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
イカル	2	42・59
ウグイス	41	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・14・15・17・19・22・25・26・27・29・30・31・32・37・39・40・41・42・43・45・47・48・50・51・54・55・56・58・59・63・64・
エナガ	30	1・3・4・5・6・7・8・9・10・14・15・19・25・26・27・28・31・32・36・37・42・45・47・50・51・52・55・56・58・59
オオアカゲラ	1	15
オオタカ	14	4・5・10・15・19・26・27・32・47・50・51・54・56・58
オオヨシキリ	13	1・5・7・10・11・19・22・25・31・32・50・54・58
カッコウ	2	10・32
カワセミ	23	1・4・5・7・8・9・10・12・15・16・19・22・26・27・31・32・43・46・50・51・54・56・58
カワラヒワ	39	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・22・25・26・27・28・30・31・32・37・39・40・42・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59
キジ	8	1・4・5・10・22・32・54・58
キジバト	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・32・36・37・39・40・41・42・44・45・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
キセキレイ	6	8・9・27・31・32・56
キビタキ	6	3・32・47・51・58・59
クロツグミ	2	15・59
コガラ	1	40
コゲラ	36	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・15・19・22・25・26・27・28・30・31・32・37・39・40・42・45・47・48・50・51・52・55・56・58・59・63
ゴジュウカラ	1	31
サンコウチョウ	3	32・47・59
サンショウクイ	3	4・7・32

種 類	地区数	目撃された地区
シジュウカラ	49	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
スズメ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
セグロカモメ	6	5・10・22・32・50・58
セグロセキレイ	24	1・2・4・5・6・7・9・12・15・17・19・26・27・ 29・32・37・39・42・47・50・56・58・59・64
セッカ	7	5・10・15・22・32・50・58
センダイムシクイ	4	3・32・51・59
ツツドリ	2	32・47
ツバメ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
ドバト	44	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・14・15・16・ 17・19・22・23・25・26・28・29・30・31・32・36・ 39・40・41・42・43・44・45・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59・64
ハクセキレイ	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・32・ 36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・64
ハシブトカラス	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・47・48・ 50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
ハシボソカラス	43	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・ 39・40・41・42・44・45・47・48・50・51・52・54・ 55・56・58・59・64
ヒバリ	25	1・2・4・5・6・7・10・11・12・15・16・22・25・ 27・29・30・32・37・40・41・50・54・55・56・58

種 類	地区数	目撃された地区
ヒヨドリ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
フクロウ	2	25・58
ホオジロ	21	1・4・5・7・8・9・10・15・16・22・25・27・30・ 32・37・45・50・54・55・58・59
ホトトギス	2	26・31
ムクドリ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・23・25・26・27・28・29・30・31・ 32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
メジロ	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・14・15・16・ 17・19・22・25・26・27・28・29・30・31・32・36・ 37・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・50・ 51・52・54・55・56・58・59・63・64
モズ	44	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・22・25・26・27・28・29・30・31・32・ 36・39・40・41・42・45・47・48・50・51・52・54・ 55・56・58・59・63・64
ヤマガラ	22	3・4・5・6・7・8・9・15・19・26・27・28・31・ 32・42・47・48・51・52・55・58・59

◇以下得点の対象となっていない野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオサギ	25	1・2・4・5・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・26・31・32・42・43・50・51・54・56・58
アオジ	27	1・2・3・4・7・8・9・10・12・15・19・22・25・26・27・28・31・32・47・48・50・51・54・55・56・58・59
アカハラ	12	5・15・19・22・25・31・32・42・47・51・58・59
アトリ	2	15・32
アマサギ	2	5・11
アメリカヒドリ	1	32
アリスイ	3	10・32・58
イカルチドリ	1	32
イソシギ	7	1・2・4・5・10・32・58
イソヒヨドリ	8	2・6・7・31・32・45・50・52
イワツバメ	6	2・5・6・12・54・58
ウミアイサ	1	32
ウミネコ	3	15・32・58
エゾビタキ	4	5・7・32・58
エゾムシクイ	2	32・58
オオジシギ	1	32
オオジュリン	8	4・5・10・17・22・32・54・58
オオハクチョウ	3	7・19・26
オオバン	19	1・2・4・5・6・7・10・12・16・17・19・22・23・26・32・43・50・54・58
オカヨシガモ	5	2・4・19・26・32
オシドリ	3	19・32・58
オナガ	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・17・19・22・23・25・27・28・29・30・31・32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
オナガガモ	8	15・19・26・29・32・46・54・58
カイツブリ	13	1・2・4・5・10・12・19・22・26・32・50・54・58
カケス	12	3・4・7・19・25・26・27・32・48・51・56・58
カシラダカ	5	8・9・10・19・32
カルガモ	30	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・23・25・26・27・31・32・40・43・46・50・52・54・56・58
カワウ	22	1・2・4・5・6・7・10・11・12・15・16・17・19・22・23・26・32・43・46・50・54・58
カンムリカイツブリ	8	5・10・19・22・26・32・50・58
キアシシギ	2	5・11
キクイダタキ	2	47・58

種 類	地区数	目撃された地区
キンクロハジロ	7	1・5・10・32・46・54・58
クイナ	5	1・4・32・54・58
クサシギ	1	32
クロジ	2	28・32
ケリ	1	58
コアジサシ	5	5・10・11・32・50
ゴイサギ	10	1・10・16・19・25・26・31・32・43・58
コガモ	16	1・4・5・6・7・10・12・16・19・22・26・31・32・46・54・58
コサギ	23	1・4・5・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・26・31・32・42・43・46・50・54・56・58
コジュケイ	4	10・25・26・27
コチドリ	10	1・2・5・10・11・32・42・54・56・58
コハクチョウ	1	32
コミミズク	1	32
コムクドリ	5	11・22・32・58・59
コヨシキリ	1	12
シメ	19	3・4・7・15・19・22・26・27・28・31・32・42・47・50・51・54・56・58・59
ショウドウツバメ	1	32
ジョウビタキ	38	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・14・15・16・17・19・22・25・28・30・31・32・36・37・39・42・43・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59
シラコバト	1	15
シロチドリ	1	54
シロハラ	21	3・4・5・7・10・15・19・25・26・27・28・31・32・42・47・48・51・55・56・58・59
スズガモ	3	5・32・58
ダイサギ	17	1・4・5・6・8・9・10・11・16・19・22・26・32・50・54・56・58
タゲリ	6	5・10・11・16・32・58
タシギ	7	1・5・16・31・46・54・58
タヒバリ	8	1・5・10・15・22・32・54・58
チョウサギ	8	2・5・10・11・31・32・54・58
チュウシャクシギ	2	5・11
チョウゲンボウ	12	1・5・7・10・11・15・22・32・48・50・58・59
ツグミ	39	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・22・25・26・27・28・30・31・32・36・39・41・42・43・45・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59

種 類	地区数	目撃された地区
ツミ	7	5・6・7・12・28・31・32
トビ	7	10・15・22・32・47・58・59
トモエガモ	1	32
トラツグミ	2	32・58
ニシセグロカモメ	1	32
ノスリ	9	10・19・26・27・32・47・54・55・58
ノビタキ	3	10・32・58
ハイタカ	1	32
ハシビロガモ	5	1・5・32・46・54
ハヤブサ	3	28・32・58
バン	8	1・4・5・7・19・32・54・58
ヒガラ	1	7
ヒドリガモ	14	1・2・4・5・6・10・16・19・23・32・46・50・54・58
ビンズイ	2	32・47
ベニマシコ	4	10・22・32・50
ホオアカ	2	10・32
ホシハジロ	7	1・5・10・22・32・54・58
マガモ	12	1・4・5・11・19・22・26・31・32・46・54・58
マヒワ	5	7・19・26・32・47
ミコアイサ	1	32
ミサゴ	3	5・32・50
ムナグロ	5	5・11・22・32・58
メボソムシクイ	1	32
ユリカモメ	9	1・2・5・7・10・12・32・50・58
ヨシガモ	1	32
ルリビタキ	5	2・8・26・27・47

参考資料

○土地利用状況

土地利用状況調査は、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、調査員自身に野鳥観察とは違った目線で、地域の環境を知ってもらえるのではないかと目的から実施していましたが、平成 23 年度からは都市計画基礎調査より土地利用現況を掲載しています。

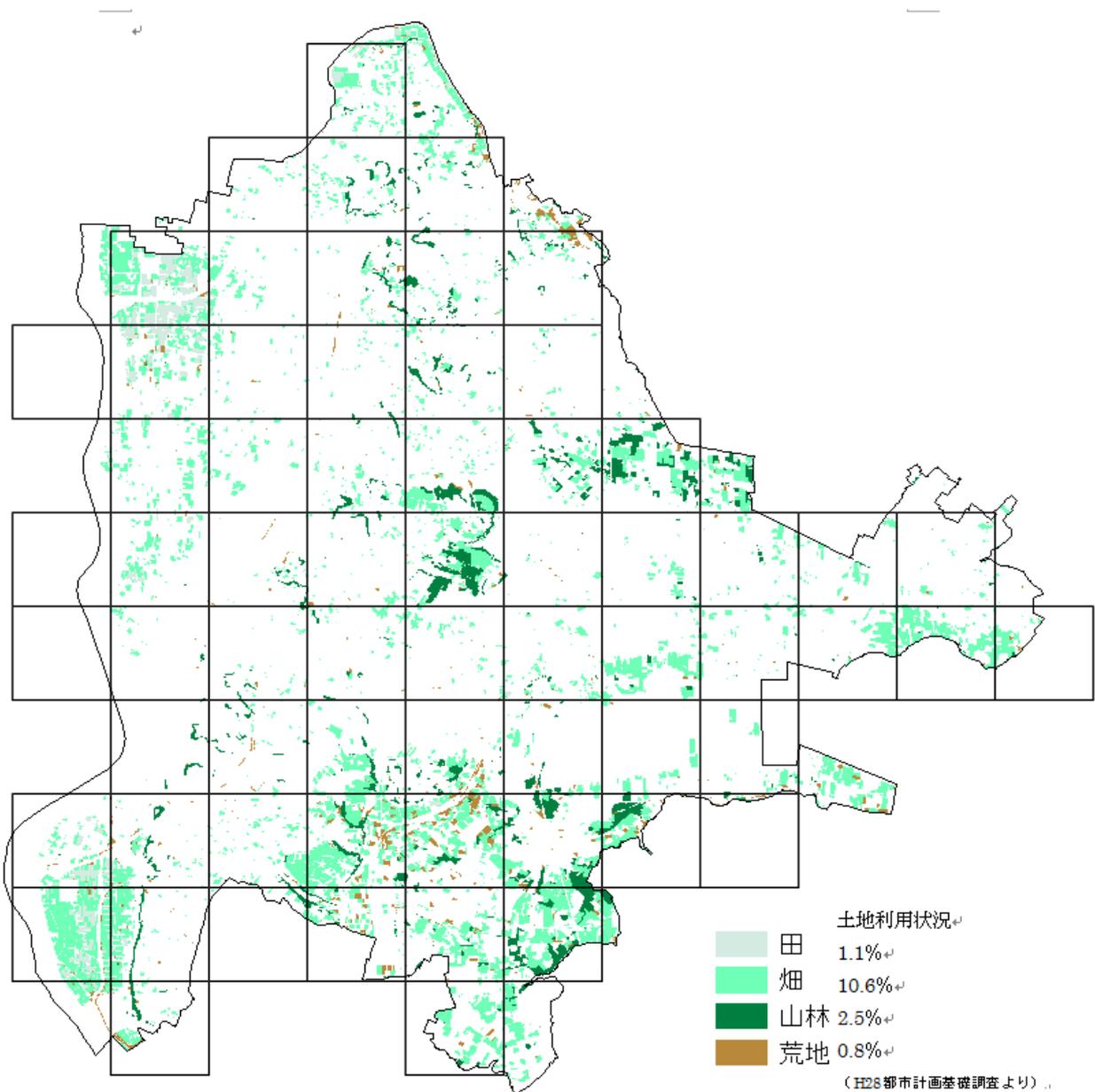


図-8 土地利用状況

○特定外来生物

平成 27 年度から地域環境調査などでの活動において、特定外来生物やその他の生きものを目撃した際には、調査員の方に報告をお願いしているところです。

「**特定外来生物**」・・・外来生物（海外が起源のもの）のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省において指定されたものをいいます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。また、原則として飼育・栽培・保管・運搬することが禁止されています。

目撃した場合には、写真を撮影の上、環境政策課に連絡いただくか、松戸市ホームページに専用のフォームがありますので、必要事項を入力の上、投稿してください。

専用フォーム

【松戸市 TOP⇒くらし⇒環境⇒自然環境⇒外来生物⇒特定外来生物の目撃情報投稿フォーム】

アドレス：

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoushizenkankyo/mokugeki_jyouhou.html

(1) 市内で確認されている特定外来生物（一部抜粋）

・アライグマ



ペットとして飼われていたものが野生化した結果、生態系や農作物などに深刻な被害を与えています。見かけによらずどう猛な性格をしています。

大きさ	体長 40～60 cm、尾が 20～40 cm 全体で 60 cm～1m位になります。
特徴	尾のしま模様が最大の特徴です。模様がなければ違う生きものです。

・カミツキガメ



大型に成長し、様々な生物を捕食します。また、噛む力が強く、人間の身体への被害も想定されます。

大きさ	背甲長 50 cm 体重は約 30 kgにも達する。
特徴	鋭い口と爪、甲羅に 3 本の隆条（キール）、尾は 1～3 列の鱗状

・オオキンケイギク



5月～7月頃にかけて咲き、道端や河原などに生息します。強靱なため一度定着すると他の在来植物などの生育場所を奪ってしまいます。

大きさ	草丈は 30～70 cm程度
特 徴	黄橙色の花びら、花びらの先端がギザギザ

・アレチウリ



一年生のつる植物で、開花期は8月～10月になります。全国の河川等で繁茂し、他の植物がほとんど生育しないなどの恐れがあります。

大きさ	長さは、数メートルから十数メートルに及ぶ
特 徴	葉がハート形の手のひらサイズ、ツルからは3～4本の巻きひげ

(2) 千葉県内で確認されている特定外来生物

今のところ市内で確認はされておりませんが、近隣市では確認されたものもいます。定着等を防ぐためにも調査の傍ら、目撃した場合には、情報提供をお願いいたします。

千葉県内で確認記録のある特定外来生物一覧						
(令和2年3月31日 現在 43種)						
哺乳類	1	アカゲザル	昆虫類	25	アカボシゴマダラ ★	
	2	アカゲザル交雑種		26	セイヨウオオマルハナバチ	
	3	マスカラット		27	アカカミアリ	
	4	アライグマ ★		28	ヒアリ	
	5	キョン	甲殻類	29	ウチダザリガニ	
鳥類	6	カナダガン	クモ類	30	セアカゴケグモ ★	
	7	ガビチョウ	軟体動物	31	カワヒバリガイ	
	8	カオグロガビチョウ		32	オオキンケイギク ★	
	9	カオジロガビチョウ		33	ミズヒマワリ	
	10	ソウシチョウ		34	オオハンゴンソウ	
爬虫類	11	カミツキガメ ★		植物	35	ナルトサワギク
	12	ハナガメ			36	オオカワヂシャ
	13	ハナガメとニホンイシガメの交雑種			37	ナガエツルノゲイトウ ★
	14	ハナガメとクサガメの交雑種			38	アレチウリ ★
両生類	15	ウシガエル ★			39	オオフサモ ★
魚類	16	オオタナゴ			40	オオバナミズキンバイ
	17	コウライギギ			41	ボタンウキクサ
	18	チャンネルキャットフィッシュ			42	アメリカオオアカウキクサ
	19	カダヤシ ★			43	ナガエモウセンゴケ
	20	ブルーギル ★				
	21	コクチバス				
	22	オオクチバス ★				
	23	ストライプトバス				
	24	ショートノーズガー				

★市内で確認しているもの

「令和2年度千葉県環境白書」参照

(3) 近年話題になった特定外来生物

松戸市内では確認されていませんが、近隣市や近隣の県等で確認されています。

- ・ヒアリ（千葉県内確認あり）



南米中部原産で、日本には港湾などのコンテナに紛れるなどして見つかっています。攻撃性が強く、巣などに刺激を与えると集団で襲いかかります。

大きさ	2.5mm～6mm程度 体の色は全体的に赤茶色
特徴	背中に2つのこぶ。
備考	在来のアリの中にも体が赤茶色のアリはいます。赤茶色だからといって必ずしもヒアリとは限りません。

- ・セアカゴケグモ（千葉県内確認あり）



地面や人工物の裏など日当たりの良い暖かい場所に営巣します。攻撃性はありますが、むやみに近づくと噛まれる恐れがあります。

大きさ	メスは大きさが1cm程度、脚を広げると約3cm。オスはその半分
特徴	メス：背中に縦に赤い斑紋有り。 オス：斑紋無し。

○その他の生きもの

地域環境調査では、先に挙げた特定外来生物の他、調査員の方が興味を持った生きものなどについても報告をいただいているところです。

調査の傍ら、気づいた生きものや珍しい生きものがありましたらご報告いただいています。

<トンボの目撃情報>

39 地区	シオカラトンボ・アカトンボ
43 地区	ハグロトンボ

<蝶の目撃情報>

5 地区	ナガサキアゲハ幼虫・ツマグロヒョウモン幼虫
7 地区	カラスアゲハ・モンキチョウ・ホタルガ・ウメエダシャクガ

<セミ類の目撃情報>

7 地区	ミンミンゼミ
------	--------

<その他生きもの目撃情報>

4 地区	ハクビシン
7 地区	青バッタ
8 地区	コウモリ
25 地区	ハクビシン
32 地区	イタチ・コウモリ・ホンドギツネ (植物：アレチウリ)
36 地区	アブラコウモリ
39 地区	コウモリ・ヘビ・ハクビシン・カメムシ
40 地区	コウモリ
43 地区	ボラ
51 地区	タヌキ
52 地区	コウモリ

○コラム

このページでは、調査員の方から報告のあった野鳥の写真をご紹介します。
(一部抜粋)



オオタカ幼鳥

撮影者：村松調査員

ジョウビタキ

撮影者：平調査員



オオヨシキリ

撮影者：村松調査員

メジロ

撮影者：小松調査員



ベニマシコ

撮影者：平調査員

キジ

撮影者：村松調査員





河川敷火災

撮影者：吉田調査員

火災後の風景

撮影者：吉田調査員



シメ

撮影者：小松調査員



○地域環境調査員からの短信 (一部抜粋)

地域環境調査では年2回(半年に1回)、調査員が事務局へ調査票を提出していただきます。その中で調査員から市へ短信が寄せられることがあり、身近な環境の変化や出来事を報告していただいています。ここでは、それらの一部をご紹介します。

令和2年度調査員短信(前期)

地区	
1	・5月に入りカルガモの数がめっきり減ってきたのを実感した。
7	・第7区並びにその周辺では大規模な宅地開発・造成が行われており、自然環境は悪化の傾向にある。コジュケイがいなくなっているから久しいが・・・。
14	・全体的に鳥の数が少なかった。
22	・7/2 ムクドリの100羽ほどの群れが雨上がりのグランドゴルフ場の芝生で採餌していた。この群れには幼鳥も多く、親鳥から餌をもらっていた。・9/4 ムクドリの150羽ほどの群れ(若鳥が多い)がグランドゴルフ場の芝生で採餌していた。子の芝生はムクドリお気に入りの採餌場所となっているようだ。・9/17草刈りしたばかりの堤防で400~500羽のムクドリの群(若鳥が多い)が採餌していた。
29	・近所の庭木などがこのところでだいぶ切られたせいか、鳥の数や種類が少なくなっているようです。昆虫なども同様のようです。
32	・外来種のアレチウリの大繁殖で野鳥が近づけず、直立した木々を枯らしている。・昨年の台風による濁流でゴミが詰まり「ふれあい松戸川」の流れが止まり、水質が悪くなり水鳥が寄りなくなった。・本来、松戸市に居ない筈の「ホンドギツネ」が確認された。おそらく昨年の秋の台風で上流から流されて来たものと思われる。
36	・観察場所の駒形公園砂場でいつも野良猫が昼寝をしている等で鳥が近づかない。・住宅工事が続く、車両の出入りが増加、空地・畑の減少等がここ2年くらいの間に見られた。・それらの結果としてか、観察できる鳥の飛来頻度は著しく減少した。
43	・2019年秋頃から2020年春先にかけて、松戸神社の坂川の流水調査が実施されました。2019年の時点では、江戸川から坂川に放流される水量が激減して、坂川の水量は大幅に減少し、この結果、角町から本町にかけての坂川の水質は悪化の一途をたどっていました。2020年春頃から江戸川(小山)から坂川に放流される水量が大幅に増加しました。この結果、角町から本町にかけての坂川の水質は日を追って改善され、以前の清流が戻って来ています。2020年6月から10月にかけて、本町、角町の坂川で、ハグロトンボが10匹確認できました。(2019年はトンボの数は0でした)さらに、小型のボラの大群の回遊も復活してきました。これからも坂川の清流の復活に期待しています。
58	・緑地斜面林の大規模伐採があり野鳥の好む環境でなくなり、毎年見られるウグイス、ムシクイ類が入らない。

令和2年度調査員短信（後期）

地区	
1	<p>・ヒドリガモの数が年々減ってゆき残念です。平成26年は100羽以上の群れで迫力があつたが、今年は一かたまりが20羽程度。日によってはどこにもいない時もあり、富士川、坂川がととてもさみしくなりました。</p>
4	<p>・この冬は、富士川へ鷹狩りに来る人もほとんど無く（ただし、12/1には目撃）おかげで富士川ではカモ類をずっと見る事ができました。どなたかがご尽力いただいたのであれば、お礼申し上げます。</p> <p>・この冬には例年よりオオバン、キジバトが随分多かつたと感じました。令和2年10月下旬から11月上旬にかけて、タヌキ（親1匹と子2匹）が出没し、我が家の庭にも現れました。近所の農家の話では本土寺に住み着いていたのがやって来たのだろうとのことでした。</p>
7	<p>・1/21 東漸寺境内のイチョウの木・先端部で陽を浴びるかのように群れているマヒワ40羽を初認。市内でマヒワ確認は初めての事？</p> <p>・10/11 アブラコウモリ1匹が新坂川・大谷口新橋下流にて川沿いに飛翔するのを視認。</p> <p>・10月にはサルスベリ・ねむの木・クコが咲き、クリ・ザクロなどが実りだす一方、足元ではツユクサ・カタバミ「関さんの森」～関家の玄関付近では桜の狂い咲き見られた。</p>
7	<p>・10～3月にかけて、関さんの森にヒヨドリ、カラスの数が増加したと思いました。コロナ禍にあり、人流変化、ごみ量（ステーションからあふれる日も）が関係しているのではないのでしょうか？歩道にハト（キジバト）スズメが増えたと感じました。</p>
14	<p>・全体的に鳥の数が少なくなっている（特にスズメ）時間帯によって会える時と会えない時があるのだと思うが、今年はジョウビタキに会う回数が1回のみだった。</p>
15	<p>・同一コース、同一場所ではほぼ同じ時間帯に調査を実施しているが、11月下旬頃より例年に比べて野鳥が姿を見せるのが少なくなったように感じた。</p>
22	<p>・10/21 河川敷のグランドゴルフ場脇の芦原が刈り払われていた。11/24にはさらに大規模な刈り払いが行われており、樹木も伐採されていた。例年オオヨシキリが営巣していた場所だが、来年は難しいかもしれない。</p>
32	<p>・1月末の江戸川河川敷の火事で2月はあまり見かけなかった、キジやノスリ、チョウゲンボウが3月になると帰ってきたようでほっとしました。</p>
32	<p>・1/31 江戸川河川敷でヨシ原が焼ける火事があつた。（ふれあい松戸川）半面800mが焼失。今までいた野鳥、小動物は居なくなり、自然生体が変わってしまった。</p> <p>・一昨年秋の台風以来、江戸川の洪水でゴミや土砂によって（ふれあい松戸川）が積まり流すためのポンプが動かなくなった。その為水質が悪化、小魚も住めないかわになり、水鳥、カワセミが近づかなくなった。</p> <p>・消えていた「タヌキ、イタチ」が春になり戻って来た。</p>

32	<ul style="list-style-type: none"> ・2/1 コスモス畑の南端～樋ノ口水門までの江戸川と松戸川の間の芦原がすっかり焼けている。オオジュリン・ベニマシコ、キジなどは住み場所を追われたと思われる。一方で、焼け原でタヒバリ、ツグミ、キジバトが盛んに採餌している。これらの鳥にとっては採餌場所が広がったようだ。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・秋口よりジョウビタキ（オス）が樋ノ口水門近くに居ついていましたが、人懐っこくよく近くまで出てきてくれていたのですが、1月中旬より行方不明となってしまいました。猛禽類に襲われたのかもしれないという噂もあります。 ・1/31 午後、ふれあい松戸川沿い片岸、あし原エリアが 500m にかけて火災で全焼しました。全てが灰になってしまい、もう野鳥達は来なくなってしまうのではないかと、とても心配しましたが、鳥たちはそんなに嫌ではなかったようです。後日現場に行ってみますと、タヒバリ、ジョウビタキメス、シロハラ、アカハラ、ムクドリなどが焼け野原にいました。また、見晴らしが良くなったため、滅多に見ることのできないクイナも観察することができました。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・夏から秋の夕方は畑の上空にアブラコウモリが目立つ。
43	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸 2 丁目から角町にかけての坂川では、2019 年秋頃以降、小山揚水場から放流される水量が増加しました。坂川の清流に群生する都市部では貴重な存在となった「ハグロトンボ」は、坂川の水質が悪化した 2019 年頃には角町付近で数匹しか確認出来ませんでした。ところが、放流される水量が増加した 2020 年夏頃には、坂川の水質は大幅に改善されました。この結果、角町から松先稲荷橋にかけての坂川に「ハグロトンボ」が優雅に飛ぶ姿が復活し、その数は 10 数匹となりました。また、以前は坂川に生息していたボラの大量は、2019 年にかけて観察出来なくなっていました。ところが、坂川の水質が大幅に改善された 2021 年 1 月から 3 月にかけては、数千匹の大群が黒い帯状の塊となって群遊する姿が復活しました。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・矢切地区の物流センター計画で今まで作付けされていた田畑の一部が休耕田になり荒れ地化している。そのせいかその様な場所を好む（ノビタキ）が見られた。 ・中矢切の斜面林は大木が伐採され普段隠れている野鳥たちが居られなくなった。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・2/19 神明神社東側の大木数本が伐採され藪も刈り払われていた。神社はアオジやウグイスが毎年越冬しており、春の渡りの季節にはキビタキも見られていたが、樹木の減少が今後の野鳥の飛来に影響するかもしれない。

○おわりに

平成11年度から始まった「生きもの調査」は、平成17年度から「地域環境調査」と形を変えて、平成21年度まで5年間の調査を行い、平成23年度より調査を再開し、令和2年度も報告書としてまとめることができました。

ご協力をいただいた調査員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この調査は市民の皆さんによるボランティアで実施しており、調査員の知識や経験、また各調査地区における調査員の人数や、調査頻度、調査場所、時間帯、天候等によっても観察結果に差が生じると考えられます。

そのため、今回報告された結果において、一概に報告の少ない地域が必ずしも野鳥が少ないとは判断できず、前後の調査結果も踏まえて傾向を把握していく必要があると思われます。少なくとも今回報告のあった野鳥が存在する、若しくはそれ以上の野鳥が存在する可能性は否定できないと考えられます。

松戸市環境計画で掲げる「めざすまちの姿」の創造は、調査員や環境ボランティアの方々にとどまらず、そこに住む市民一人ひとりが地域の環境について知り、関心を高め、自ら行動することから始まります。

この調査が多少なりとも足掛かりとなれば幸いです。

※調査結果は、後日、松戸市のホームページからもご覧いただけます。

市ホームページのトップページから【ホーム ⇒ くらし ⇒ 環境 ⇒ 松戸市地域環境調査 ⇒ 地域環境調査結果】と進んでください。

アドレス：

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoushizenkankyo/tiiki-tyouasa/chiikikankyou_kekka.html



小松調査員撮影

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙を使用しています。

総合評価値 90
古紙パルプ配合率：70%
白色度：72%

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



松戸市地域環境調査報告書

令和 3 年 8 月

○発行 松戸市

〒271-8588

松戸市根本 387 番地の 5

TEL : 047-366-1111

URL : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

○編集 松戸市 環境部 環境政策課

TEL : 047-366-7089

FAX : 047-366-8114

イラスト提供 : 公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和 3 年 8 月 16 日発行